

平成28年度

フィールドワーク

共生の森もがみ

ハンドブック



Fieldwork MOGAMI HandBook

- エリアキャンパスもがみ 大学事務局
山形大学 小白川キャンパス事務局 教務課教育企画担当
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL: 023-628-4707
FAX: 023-628-4720
E-Mail: acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- エリアキャンパスもがみ 最上事務局
〒999-5101 新庄市大字昭和660
TEL&FAX: 0233-32-1890
E-Mail: qqkr3mpd@mkc.jp
- フィールドワークホームページ
<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/>



自然、環境、文化、歴史、ひと
五感を研ぎ澄ませて
「もがみ」を感じる

目次 Contents

授業開設のメッセージ	02
授業計画(シラバス)	03
フィールドワークプログラムマップ	05
アイコンの説明	07

前期

「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～	09
「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界	10
地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	11
マルシェ“本活プロジェクト” ～本と人をつなげる出前図書館～	12
山間地の宝物を見つけよう	13
探求! 谷口銀山～その秘められた歴史～	14
森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	15
森がもたらす地域の活力に触れよう!	16
舟形町の自然と文化にふれる ～国宝「縄文の女神」を活用した町おこし～	17
地域から元気を!	18
八敷代伝承文化活性化プロジェクト	18
子どもたちの自然体験支援講座Ⅰ	19
蛙川歌舞伎と里山環境学習	20
戸沢村の超元氣印! 幸齢者集団の生きざまに学ぶ	21
里山保全と山菜料理	22
夏秋野菜の栽培と郷土料理	23

後期

体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」	24
七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	25
新庄伝統の民俗文化を体験しよう ～隠明寺風と昔語り～	26
山間地の文化を掘り起こそう!	27
森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～	28
大場満郎さんの冒険の心に触れ、 最上を体感しよう!	29
里地里山の再生	30
子どもたちの自然体験支援講座2	31
【大蔵村】自然・人・もの体験	32
里山保全とキノコ料理	33
創作太鼓と冬の里山ぐらし体験	34

五感を研ぎ澄ませて 「もがみ」を感じてほしい

山形県最上広域圏は南西に最上川が流れ、大部分が山岳・丘陵地帯の自然豊かで、市町村毎に独自の文化を有する農山村地帯ですが、一方で8市町村のうち6町村が「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域に指定されています。大学や短期大学などの高等教育機関が一つもない最上広域圏では、長らく大学誘致を悲願としてきました。この要望に応える形で、平成17年4月、山形大学「エリアキャンパスもがみ」は発足しました。

この科目は、地域固有の本物の自然や地域に根差した歴史・文化を活用して、『環境』と『人』とが共生した生活のできる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生諸君に直に感じてもらう科目として企画されました。教育研究施設がないハンディキャップを逆手に取り、個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業は、他に類を見ない授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の各市町村が、地域の特色を表す講師を提供するとともに、授業実施の全般を担当する形で行われることも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感をとぎすませば、宝物はすぐ近くにあります。最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。

山形大学エリアキャンパスもがみキャンパス長
小白川キャンパス長 玉手 英利

授業計画 (シラバス)

授業科目名:

前期 フィールドワーク - 共生の森もがみU (地域学)

後期 フィールドワーク - 共生の森もがみV (地域学)

担当教員: 教育開発連携支援センター教員

担当教員の所属: 教育開発連携支援センター

開講学年: 1年, 2年, 3年, 4年 開講学期: 前期・後期

単位数: 2単位 開講形態: 演習

授業概要

◎テーマ

自然豊かな最上広域圏でのフィールドワークを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。この科目は、最上広域圏の8市町村そのものをキャンパスとして活動を展開する授業科目として創出されました。

この地域を舞台に、「達人講師」の指導の下、8市町村廻りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ることは、山形を知り、日本を知り、ひいては世界を知ることにつながっていきます。山形大学に来て良かったと思える授業です。

◎到達目標

「課題発見能力」、「課題探求能力」、「プレゼンテーション能力」、「コミュニケーション能力」、「行動力」、「社会性」の基礎的な力を身につけることを目標とします。

◎キーワード

山形, エリアキャンパスもがみ, 地域社会, プレゼンテーションスキル

科目の位置づけ

教養科目における「山形に学ぶ」という領域の科目です。基盤教育の基本姿勢(人間力を育成し、自律した個人として社会における責任を果たす態度・志向性を身につける)を最上地方というフィールドで直接的に身につけることができます。

授業計画

◎授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは、基本的に1泊2日のフィールドワーク×2回を中心とし、事前学習, 中間学習, 事後学習を行います。各回のフィールドワーク終了後に「記録ノート(レポート)」, 2回目のフィールドワーク終了後に最終レポート「私はもがみで考えた!」を提出してもらいます。また、フィールドワーク終了後には、学びの成果を示す「活動報告会」を行います。

- ①「新庄まつりとオレ」～日本の山車行列～(新庄市)
- ②「作陶に挑戦!」新庄東山境の世界(新庄市)
- ③地域の資源を活かし山屋の魅力を探る(新庄市)
- ④マルシェ「本活プロジェクト」～本と人をつなげる出前図書館～(新庄市)
- ⑤山間地の宝物を見つけよう(金山町)
- ⑥探求! 谷口銀山～その秘められた歴史～(金山町)
- ⑦森と人との共存を考えるⅠ～山間地の歴史を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑧森がもたらす地域の活力に触れよう! (最上町)
- ⑨舟形町の自然と文化にふれる～国宝「縄文の女神」も活用した町おこし～(舟形町)
- ⑩地域がら元気と力も! 八歌代伝承文化活性化プロジェクト(真室川町)
- ⑪子どもたちの自然体験支援講座Ⅰ(真室川町)
- ⑫鮭川歌舞伎と里山環境学習(鮭川村)
- ⑬戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生きざまに学ぶ(戸沢村)
- ⑭里山保全と山菜料理(戸沢村)
- ⑮夏秋野菜の栽培と郷土料理(戸沢村)

前期

後期

- ①体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」(新庄市)
- ②七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
- ③新庄伝統の民俗文化を体験しよう～隠明寺風と昔語り～(新庄市)
- ④山間地の文化を掘り起こそう! (金山町)
- ⑤森と人との共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑥大場満郎さんの冒険の心に触れ、最上を体感しよう! (最上町)
- ⑦里地里山の再生(舟形町)
- ⑧子どもたちの自然体験支援講座Ⅱ(真室川町)
- ⑨[大蔵村] 自然・人・もの体験(大蔵村)
- ⑩里山保全とキノコ料理(戸沢村)
- ⑪創作太鼓と冬の里山ぐらし体験(戸沢村)

授業日程

① 各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査

前期	4月14日(木) 16:30～ 基盤教育2号館 222教室	後期	10月11日(火) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	-----------------------------------

② オリエンテーション 班編制・顔合わせ・FWの心構えについて

前期	5月9日(月) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室	後期	10月24日(月) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	---------------------------------	----	-----------------------------------

③ フィールドワーク活動期間

前期	5月14日(土)～7月10日(日)	後期	10月29日(土)～1月22日(日)
----	-------------------	----	--------------------

④ 活動報告会

前期	7月22日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室	後期	2月3日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	---------------------------------

学習の方法

▼受講のあり方

①安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。

②専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドワーク(あるく・みる・きく)で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。「現場で考える」[体で考える] (もちろん頭も使います) ことが合言葉! そして、自分の想像力を大事にしてください。

▼授業時間外学習へのアドバイス

①オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。

②オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習, ②レポート「記録ノート(1回目)」, ③中間学習, ④レポート「記録ノート(2回目)」, ⑤最終レポート「私はもがみで考えた!」に取り組んでください。

③フィールドワーク終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。どのように行なうかについては説明会が開催されます。発表指導の機会を2回以上設けます。

成績の評価

▼基準

①地域での活動により課題を発見し、探求により深い、活動報告会の発表により他者に伝える事が出来たかどうかを評価の基準とします。

②一連のグループ学習の中でコミュニケーション

能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とします。

▼方法

フィールドワーク活動への参加度 30% / 活動報告会での発表の完成度 20% / 現地講師による活動評価 40% / 受講生による相互評価 10%

テキスト・参考書

オリエンテーションで配布する小冊子「フィールドワークの手引き」及び「しおり」を参照の他、各プログラムの中で地域で配布される資料を活用してください。

その他

▼学生のみなさんへのメッセージ

最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて(味わって)、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。大学から最上広域圏までは借上げバスを利用し、最上広域圏内の移動は、各市町村で手配します。プログラムによっては、宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。(詳細は、「各プログラムの紹介」の際に説明します。)

▼オフィス・アワー

オフィス・アワーはありませんが、この授業の運営に協力する小川キャンパス事務部教務課の事務職員が窓口にあたります。(学生センター内エリアキャンパスもがみ事務局・小川キャンパス事務部教務課:023-628-4707)

フィールドワーク プログラムマップ



前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①「新庄まつりとオレ」 ～日本一の山車行列～	新庄市	6月18・19日	7月9・10日
②「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界	新庄市	6月18・19日	7月9・10日
③地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	新庄市	6月4・5日	6月25・26日
④マルシェ「本活プロジェクト」 ～本と人をつなげる出前図書館～	新庄市	5月14・15日	6月18・19日
⑤山間地の宝物を見つけよう	金山町	6月11・12日	7月9・10日
⑥探求！谷口銀山～その秘められた歴史～	金山町	5月21・22日	7月9・10日
⑦森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史も探り地域振興へ～	金山町	5月14・15日	6月11・12日
⑧森がもたらす地域の活力に触れよう！	最上町	6月11・12日	7月9・10日
⑨舟形町の自然と文化にふれる ～国宝「縄文の女神」を活用した町おこし～	舟形町	5月14・15日	5月28・29日
⑩地域から元気と力を！ 八代代伝承文化活性化プロジェクト	真室川町	6月11・12日	7月9・10日
⑪子どもたちの自然体験支援講座Ⅰ	真室川町	6月11・12日	7月9・10日
⑫鮭川歌舞伎と里山環境学習	鮭川村	6月11・12日	7月9・10日
⑬戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生きざまに学ぶ	戸沢村	5月28・29日	6月25・26日
⑭里山保全と山菜料理	戸沢村	5月28・29日	6月25・26日
⑮夏秋野菜の栽培と郷土料理	戸沢村	6月11・12日	7月9・10日

後期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」	新庄市	11月12・13日	11月19・20日
②七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	新庄市	10月29・30日	1月7・8日
③新庄伝統の民俗文化も体験しよう ～隠明寺風と昔語り～	新庄市	11月19・20日	11月26・27日
④山間地の文化を掘り起こそう！	金山町	10月29・30日	12月10・11日
⑤森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化も探り地域振興へ～	金山町	12月10・11日	1月7・8日
⑥大場満郎さんの冒険の心に触れ、 最上を体感しよう！	最上町	10月29・30日	11月26・27日
⑦里地里山の再生	舟形町	10月29・30日	11月19・20日
⑧子どもたちの自然体験支援講座2	真室川町	12月10・11日	1月21・22日
⑨[大蔵村]自然・人・もの体験	大蔵村	10月29・30日	11月5・6日
⑩里山保全とキノコ料理	戸沢村	11月12・13日	11月26・27日
⑪創作太鼓と冬の里山ぐらし体験	戸沢村	12月10・11日	1月7・8日

アイコンについて

プログラムの内容やジャンルを分かりやすく示しています。
アイコンは8つに分類されておりまして、
プログラム選択時の参考としてください。

1.料理体験・調理実習



地域の方々と一緒に郷土料理づくりやそば打ちなどを行います。

2.イベント運営・祭り体験



イベントやお祭りの企画立案や運営のお手伝いなどを行います。

3.工芸品・民芸品づくり



陶芸や地域に伝わる伝統工芸などを製作します。

4.子ども達とのふれあい・交流



子ども達と一緒に遊んだり、活動したりします。

5.トレッキング・自然散策



自然に触れながら山登りや、生物の調査などを行います。

6.農業体験



田植えや収穫体験、山菜採りなどを行います。

7.環境保全活動



河川や森の環境整備や保護活動を行います。

8.雪上活動



雪かきや雪遊びなどを行います。



前期
P.09~



後期
P.24~



新庄市 「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～



目的概要

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日まで3日間にわたって開催され、50万人の人出でにぎわう東北有数の祭りとして、また、東北の夏祭りをしめくくるにふさわしい伝統の祭りとして、脚光を浴びている。平成21年には、国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には、ユネスコの登録候補として、さらに知名度は上昇している。そのまつりのメインを飾るのが豪華絢爛な山車（やたい）パレードであるが、本講義では、新庄まつりについて学び、そして、学生が主体となるタウンミーティングを開催し、若い力でまつりのPRに多くに貢献してほしい。また、まつり本番を控え、街中がまつり一色となっている新庄市を体感してもらい、地域の伝統を誇る「新庄まつり」の魅力や、大学生の視点で探してほしい。

授業計画

1 回目の訪問

平成28年6月18日、19日

- 1日目 オリエンテーション、まつり講義
- 2日目 地元高校生との交流

2 回目の訪問

平成28年7月9日、10日

- 1日目 タウンミーティング準備
- 2日目 タウンミーティング開催

講師・担当者

新庄山車連盟会長 伊東洋一
 新庄山車連盟副会長 川崎昭栄
 新庄山車連盟顧問 林 泰夫、野川北山
 (山車人形師)
 新庄山車連盟相談役 羽賀千尋

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界



目的概要

1841年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を実体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

授業計画

1 回目の訪問

平成28年6月18日、19日

- 1日目 1.講義 焼き物の歴史
2.山から粘土取り
3.匠の実演：ろくろ回し体験

- 2日目 1.各地の有名な焼き物比較
2.血づくり実習
3.ろくろ回し体験②

2 回目の訪問

平成28年7月9日、10日

- 1日目 1.講義 釉薬の歴史
2.釉薬調合体験
3.釉薬を焼き物につける体験

- 2日目 1.本焼き作業：窯つめ&窯焚き
2.活動総括

講師・担当者

新庄東山焼弥瓶窯 涌井正和

昨年の受講生の感想 理学部 八島 満里菜

東山焼の歴史、伝統、日本六古窯、磁器と陶器の違い…。体験して、作品に温かみがあることを改めて実感しました。また、「失敗の中で光るものがある。チャレンジを続けること。目標を持つこと。陶芸のことだけでなく、たくさんの事を感じて欲しい。」そう言って下さった講師の涌井さんの人柄こそが私達に多くの事を教えてくれたのだと思います。私は、活動を通して仲間と協力し合うことの大変さと、その先にある充実感を味わいました。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る



目的・概要
山屋地区を舞台として、この時期に旬を迎える筍を味わう“山屋セミナーハウスまつり”への参加、また、空蔵山登山やキャンプ場での活動、薬師堂や観音菩薩の歴史遺産の探検など、さまざまな体験を通して当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらう。

1 回目の訪問

平成28年6月4日、5日

1 日目 空蔵山登山&たけのご収穫→
地域との交流

2 日目 山屋セミナーハウスまつり参加
→活動振り返り

2 回目の訪問

平成28年6月25日、26日

1 日目 キャンプ場整備→
農業体験→地域との交流

2 日目 歴史遺産の探検→
まとめ及び提言の発表

講師・担当者

山屋地区有志の会 会長 押切明弘

昨年の受講生の感想 農学部 大津 将太

私はこのプログラムに参加し、山屋地区の自然・食・歴史・文化についてたくさん魅力を探りながら地域の良さを学んでくることができた。タケノコ祭りの協力参加や空蔵山の登山、地域の子供たちとの交流を通して自然の豊かさや地域の方々の優しさ・温かさを感じた。一方で、農業者の高齢化や人の流出、若者や女性の人口減少といった問題が生じている。この活動を通して、地域の抱える問題や地域活性化について深く考えさせられた。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 マルシェ“本活プロジェクト” ～本と人をつなげる出前図書館～



目的・概要
毎月第3日曜日は、新庄エコロジーガーデン内で行われる「kitokitoマルシェ」(手をかけ育てられた野菜、こだわって作られた食べ物、素敵な雑貨や小物が揃う市場)の日。市立図書館も移動図書館車「かやの木号」に本とお話をのせ、出前図書館として参加しています。市民活動と連携を図りながら、新庄・最上の人々の暮らしに届いた「kitokitoマルシェ」という素敵な空間に向き、本と人をつなげ、毎回新しいことにチャレンジし、待つだけの図書館から積極的に情報を発信する図書館として活動しています。またカフェに隣接の「kitokito books」にも協力し、本と人を結ぶコミュニティ作り(本活)を行っています。図書館から飛び出し、青空の下季節を感じながら、お話し会をしたり、ワークショップを行ったり、出店している生産者の方々のコラボレーションなど、大学生の視点と感性で、「kitokitoマルシェ」出前図書館での本活と一緒に企画運営してみませんか!

1 回目の訪問

平成28年5月14日、15日

1 日目 ・図書館オリエンテーション
・「kitokitoマルシェ」会場視察(新庄エコロジーガーデン内)
・読み聞かせ講座
・ワークショップ準備など

2 日目 ・「kitokitoマルシェ」参加
・出前図書館体験
・kitokito books サポーター

2 回目の訪問

平成28年6月18日、19日

1 日目 ・読み聞かせ実践
・ワークショップ企画準備

2 日目 ・kitokitoマルシェ出前図書館運営
・図書館ワークショップ 出店
・kitokito books サポーター

講師・担当者

新庄市立図書館 館長 高橋一枝
図書館ボランティアサークル
かやのみ会 代表 須藤敏枝

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

昨年の受講生の感想 文学部 及川 亜聖紗

私がこのプログラムを希望した理由は、本が好きで、イベントの企画に興味を持っていただけからである。しかしそれ以外に、市民全体で市を盛り上げようとしていることや、読み聞かせで感じた「言葉の重み」、多くの人に支えられ私たちの活動が成り立っていることについて学んだ。周りのメンバーと協力し、大人の方々が全的に協力してくださり、私たちに足りない視点での物事を教えてくださった。机に向かっているだけでは分からない貴重な経験だった。



目的・概要

「また来てね!」地区の子供たちが、ぶんこうを後にバスに乗る学生の手を握って離さないのである。こんなに地区の子供たちを惹きつけるものは、地区の人々の目では見つけることができない、路傍の雑草のように消えようとしている資源・文化等の素晴らしさを皆さんと一緒に見つけた感激と感動がそうさせたのである。学生の皆さん!力を貸してください。知恵を貸してください。「急速に失われつつある地域の宝物!」ホトケドジョウやゲンジボタル、他では見つけることのできないチョウチョ。人と人のつながるホームスティの地域。次世代にそのまま引き継いでいくのが責任世代としての私たちの仕事です。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

講話 「里山 田茂沢の今と昔」
実習 ピオトーブの生き物調査
実習 山の幸「山菜取り」

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

講話 「森と町と人のミュージアム」
実習 そば打ち体験
実習 ホテル観察
実習 世代交流・スボレク大会

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会

担当者

道草ぶんこう運営委員会

昨年の受講生の感想 工学部 宮崎 綾乃

今まで公の場で自分の考えを話すことは何度もあった。しかし、それらは教室や部活動内での出来事であり、このように自分の意見が現実社会に触れる機会は無かった気がする。活動を通して、私は現在の農業や自然豊かな地域の現状だけでなく、人としての成長を経験し学ぶことができた。田茂沢の皆さんが、初対面の私たちに家族のように接してくれたことが本当に嬉しかった。活動を終え、帰りの際「いってらっしゃい」という言葉がとても胸に響いた。



目的・概要

目的: 地元史跡保存会のガイドの元、散策道や坑道の整備活動を通して、谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ることを目的とする。

概要: 約400年前から存在する坑道に入り、谷口銀山の歴史を体感するプログラムに参加して頂きます。地元の史跡保存会の方と共に、銀山周辺通路、坑道内の整備活動等を体験、交流を通して、歴史的な地域資源としての保存・活用へのビジョンを共に探究します。最終日には活動を通して得た経験を纏め、発表の時間を設けます。参加者でグループワークを行って頂き、纏めた内容を地域の方々へ発表して頂きます。

授業計画

1回目の訪問

平成28年5月21日、22日

講話 谷口銀山の歴史について
実習 谷口銀山坑道内、坑道周辺の整備活動
実習 吉次山登山

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

銀山周辺通路の整備作業(主に草刈り)
保存会メンバーとの交流会
グループワークと纏めた内容を地域の皆さんに向けて発表

講師・担当者

谷口銀山史跡保存会 会長 近岡榮一

担当者

金山町地域おこし協力隊 栗田雅史

昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 中村 千寿

私は、将来のためにも地域のことをもっと知りたいという気持ちで講義を受講しました。私達の主な活動内容は坑道内の清掃やその周辺の整備作業であったため、一日中体を使うとてもハードなものでしたが、だからこそ班に団結が見られ、みんなで声を掛け合いながら頑張ることが出来ました。最後までやり遂げたことは自分にとっての大きな成長でした。また、子供たちの体験学習は、教員を目指している私にとって学ぶことがたくさんありました。

森と人との共存を考える I ～山間地の歴史を探り地域振興へ～



目的・概要
遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積できれば地域活性化の一助につながるかと考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っておりますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

1回目の訪問

平成28年5月14日、15日

講話 「金山町の自然を知る」
実習 地域探検
実習 食の体験(山菜)

2回目の訪問

平成28年6月11日、12日

講話 「有屋地域の文化に触れる」
実習 下向まつり
実習 有屋少年番楽伝統芸能に触れる。

講師・担当者

遊学の森案内人会 会長

菅原忠昭

昨年の受講生の感想 医学部 海藤 ありか

私は、このプログラムで自然環境と生活の結びつきについて知ることを目標として参加した。自然保護活動を通して、自然の復活は人の力だけでなく自然自身によるものだと知り、自然の力の大きさを改めて実感した。また、金山の豊かな自然の中で育ったミス、伝統的料理である笹巻はとても美味しくて、環境の大切さを感じた。地域学の面でも学だけでなく、活動を通して積極性、コミュニケーション力、問題の多面的な捉え方など人間の成長にもつながった。

担当者

遊学の森案内人会

森がもたらす地域の活力に触れよう!



目的・概要
目的: 森の恵みを受けて様々な活動をしている地域の活力に触れ、地域の想い、現状や課題を知る。里山の自然に触れながらリースや郷土料理を作ることにより、創造性を高める。
概要: 日本一の大あまつ等の里山散策のなかで、リースや郷土料理の材料を自分たちの手で採取、調理等することで里山の暮らしを体感する。地域で伝承されている伝統芸能の体験等も行う。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

- ・巨木等の里山散策
(リース材料集め、山菜探りなど)
- ・リース材料となる花苗植え
- ・リースの材料の準備作業
- ・郷土料理づくり
- ・みつわ会の活動について

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

- ・そば打ち体験
- ・リースづくり体験
(1回目の材料も使用して)
- ・東法田田植え舞体験

講師・担当者

東法田白川みつわ会
花はな倶楽部

東法田田植え舞保存会など東法田地区の方々

昨年の受講生の感想 人文学部 阿部 智江

私がこのフィールドワークに参加しようと思った理由は、「大学進学でせっかく山形に来たのだから、山形ならではの自然や伝統文化を体験してみたい」と考えたからだ。活動中は、そば打ち、リース作り、里山散策などを体験し、地域の方々のおもてなしや温かさに触れてとても感動した。私はもともと自然に触れることが多かったが、このプログラムのような関わり方をしたことはほとんどなかったため、自分にとって有意義な活動だった。

担当者

最上町教育委員会 社会教育係

舟形町の自然と文化にふれる ～国宝「縄文の女神」を活用した町おこし～



目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得するとともに、荒廃した農地等の再生を共に考え活動する。そして「若あゆと古代ロマンの里」ふながたの4,500年前の生活・文化を学び、現代日本人の原点を考える。地域文化と自然資源を活用し、自然環境の保全活動と経済活動の両立を図り、快適かつ生き甲斐のある人生をおくることができる地域「いやしの里」づくり活動を体験し、パートナーシップ(協働)の手法で地域を再生し自然と共生した農村づくりを共に考える活動。学びの中から、縄文文化や国宝「縄文の女神」を地域づくりにどうかしたらよいかを考えます。

授業計画

1回目の訪問

平成28年5月14日、15日

- 実習 原木きのご植樹活動
- 実習 フナ林歩道調査・修繕活動
- 講義 国宝「縄文の女神」が創られた謎
- 実習 巨大土偶製作Ⅰ

2回目の訪問

平成28年5月28日、29日

- 実習 湿地の木道修繕活動
- 実習 オリジナル縄文土器製作
- 実習 巨大土偶製作Ⅱ

講師・担当者

フナの実21
舟形町歴史民俗資料館

大山邦博
沼澤 正

Newプログラム

このプログラムは初めて実施されるプログラムです！

担当者

舟形町教育委員会

地域から元気と力を！ 八敷代伝承文化活性化プロジェクト



目的・概要

獅子神楽の一種である神事芸「番楽」は、江戸時代に秋田県矢島地方から伝わってきたとされており、当町では3つの地域において今日まで伝承されています。その1つに「八敷代番楽」があり、歴史は町内で最も古く、地域内に彫師がいたことから多くの「面」が現在も残されています。このプログラムでは、永きにわたりその保存・継承に取り組む「八敷代番楽保存会」の活動の一端を体験するとともに、会員の方方や子どもたちとの交流を通して、伝承文化の新たな魅力の創生とそれらを核にした地域の活性化について学生ならではの視点で提言を発表していただきます。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

- ・八敷代番楽を体験
- ・飯山の巨木を見学

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

- ・郷土料理作りを体験
- ・学生による提言発表

講師・担当者

八敷代番楽保存会 会長

佐藤隆一 ほか

昨年の受講生の感想 人文学部 佐原 隆史

私はそもそも真室川町を知りませんでした。そして、「番楽」というものがまったく想像つかないままフィールドワークを迎えました。しかし初日、山開きの奉納祭で初めて番楽を目にしたとき、笛と太鼓の音が舞いと調和する、形容しがたい独特な雰囲気、心に奪われていることに気がつきました。このとき感じた感動は、最終日に見せていただいた別の種類の番楽のときにも感じました。何度見ても心打たれるこの舞は、確実にこの地域の魅力の一つです。

担当者

真室川町教育委員会教育課 生涯学習・スポーツ担当



目的・概要

目的：神室少年自然の家主催事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

概要：自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、主催事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

企画事業「わんぱく探検隊I-①」

小学3・4年生対象事業の支援

- ・班付きスタッフ
- ・野外炊飯
- ・テント泊
- ・トレッキング

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

企画事業「わんぱく探検隊I-②」

I-①と同じ児童対象

- ・班付きスタッフ
- ・野外炊飯
- ・テント泊
- ・ボートでの川上り
- ・ダイビング など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

担当者

山形県神室少年自然の家 研修主事 柿崎健

昨年の受講生の感想 工学部 鈴木 愛介

私がこのプログラムを選んだ理由は、子どもや自然に触れながら、今の自分を成長させてくれると思ったからだ。私たちの役割は子ども達のサポートをすることで、子ども達が活動できるように促していく役割だが、言いたいことがうまく伝わらないなど大変だった。それでも、子ども達の成長を近くで見られたことが嬉しかったし、自分が子ども達から気づかされることも多かった。こうしてお互いが成長していくプログラムに参加できて、本当によかった。



目的・概要

●6月に開催する1回目は鮭川歌舞伎体験。江戸時代より鮭川村に伝わる伝統芸能・鮭川歌舞伎。その年に一度の定期公演に参加し、運営や出演の手伝いをする中で、農村歌舞伎を通して地域の文化を学ぶ。少子高齢化で地方から若者がいなくなってきた昨今、伝統文化を後世に伝えていくにはどうしたらいいか、これらの伝統芸能を地域づくりにどう活かしたらよいかを学ぶことを目的とする。

●7月の2回目は里山環境学習。鮭川村は貴重な絶滅危惧種が息息する里山環境が色濃く残る地域である。地域の自然は地域で守るをスローガンにしている鮭川村自然保護委員会の方々より、環境保護活動について教えていただく。保全活動を通して、生物多様性について学ぶ。

1回目と2回目を合わせ、文化と環境というふたつの側面より、地域を次世代に向けて維持していくことを考える。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

- ・定期講演の会場設営
- ・小道具、かつらの準備
- ・歌舞伎出演
- ・定期公演の運営
- ・本番見学

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

- ・里地里山の保全整備体験
- ・木道づくり
- ・草刈り作業
- ・自然散策
- ・生物多様性の学習

講師・担当者

鮭川歌舞伎保存会・会長 佐藤成一
鮭川歌舞伎保存会・座長 高橋眞一
鮭川村自然保護委員会・会長 高橋 満
鮭川村自然保護委員会・事務局長 矢口末吉

担当者

鮭川村教育委員会 横山深

昨年の受講生の感想 医学部 佐野 匠

将来自分の故郷にできることを考えるきっかけにしたいと思い、このプログラムに参加しました。伝統芸能である鮭川歌舞伎は、演者が良い公演を作るため声を掛け合い、他の市町村の方々も団体に見に来ていました。このような村内外のつながりは、鮭川村に開くならなければならない魅力の一つだと思います。他にも、貴重なギフチョウとヒメギフチョウの混生地である山の神地区や、トトロのように見える大曲の大杉など、豊かで美しい自然も魅力です。

戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生きざまに学ぶ



目的・概要

1回目は、幸齢者のみなさんと古代米の田植えやメダカ池の環境整備をし、2回目はほたる祭りと炭焼き等を行います。特にほたる祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみなさんには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろいろな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティーの再生が図られるとされます。

授業計画

1回目の訪問

平成28年5月28日、29日

- ・めだか池の整備(木道づくり)
- ・ほたる祭り企画会議

2回目の訪問

平成28年6月25日、26日

- ・ほたる祭りの企画運営
- ・もらい湯
- ・炭焼体験
- ・炭窯の余熱でピザづくり
- ・わら細工

講師・担当者

北の妙創郷大学 学長
古口自治会 会長
乙夜塾 塾長

菊地清一
寺内恵一
門脇憲一

担当者

北の妙創郷大学事務局 佐藤謙次

里山保全と山菜料理



目的・概要

四方を山々に囲まれた角川地域は豊かな自然に恵まれ、山菜・キノコや林産物など山からの恵みが豊富である。この山を守り、利用する活動に取り組む。里山のナラ枯れ防止にも資する炭焼き・森林の管理作業・木工細工・山菜採り・山菜料理づくりなどの活動を体験する。

授業計画

1回目の訪問

平成28年5月28日、29日

- 1日目 地元産そばを材料にした手打ちそばづくりを体験。午後は、里山自然観察と山菜採りを行う。
- 2日目 山菜を使った料理作りを行う。午後は製材所の見学、杉林の枝打ちを行う。

2回目の訪問

平成28年6月25日、26日

- 1日目 山菜採りとそれを材料にした料理作りを行う。午後は杉林の除伐・間伐を行う。
- 2日目 炭焼き材の切り出し・木割り・運搬を行う。午後から様々な木材を利用して、木工細工を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかの里

昨年の受講生の感想

地域教育文化学部 秋山 遼

山菜料理は、想像以上の美味しさと楽しさだった。山菜の種類に驚き、調理方法の豊富さに驚き、美味しさに驚いた。山菜料理は天ぷらや、煮物くらいか思いつかなかったが、現地の人はサラダや漬物、味噌汁や肉巻きなど、とても多くの種類の調理法を教えてくれた。また、森林保護や里山保全について新しい知識を得ることができた。私は、このフィールドワークで田舎の魅力を感じ、さらに知りたと思うようになった。



目的・概要

当地域で栽培されている夏から秋に採れる野菜づくりに挑戦する。定植や種まきの方法、管理の方法を学ぶ。野菜の持つ栄養価・滋養効果や郷土料理に隠れた暮らしの文化を学ぶ。一回目は、午前中そば打ち体験を行いそれを昼食にする。畑づくりや苗の定植を体験する。午後は、戸沢村の特産品「エゴマ」の加工場視察。その後、エゴマの定植を行う。二回目は、野菜の収穫を行い、郷土料理作りを行う。午後は成長した野菜の管理（整枝・誘因・除草など）を行う。秋野菜の定植・播種作業を行う。

授業計画

1回目の訪問

平成28年6月11日、12日

1日目 そば打ち体験、野菜の畑づくり・苗の定植・種まきを体験する。

2日目 エゴマ加工場の視察、エゴマ苗の定植作業を行う。午後は夏秋野菜の播種苗の仮植を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかわの里

2回目の訪問

平成28年7月9日、10日

1日目 野菜の収穫とそれを使った郷土料理づくりを行う。午後は野菜の管理作業（整枝・誘因・草取りなど）を体験する。

2日目 野菜の収穫と郷土料理作りを行う。午後は秋野菜の定植・播種作業を行う。

昨年の受講生の感想 人文学部 熊谷 早恵

私は、もっと山形県に関心を深めることを目的としてこのプログラムに参加した。角川にはたくさんの伝承野菜があり、今も角川地区で栽培・販売されている。畑作り、種蒔き、水やり、雑草・害虫対策の体験を通して、美味しい作物をお客様に届けるための農家さんの努力に日々感謝しなければならぬと改めて感じた。また、民宿でも山菜料理や山形の郷土料理を食べることができ、「食」の面で山形県に触れることで目的を果たすことができた。



目的・概要

「ごまがしのない食品」に対する理解を深め、実際の食品製造を体験する。安全安心な食品づくりに関する著書を多数執筆する磯部晶策氏が語る、消費者の立場から食品を見分ける4条件、生産者視点から食品を見分ける4原則などを、講義及び実技を通して学んでいく。

授業計画

1回目の訪問

平成28年11月12日、13日

1日目 解説：加工食品の変遷（大量生産へ）→甘味処「悠豆里庵」の品々の実演・実習→餅の製造工程見学

2日目 講義：原材料・表示・添加物の表と裏→こし餡づくり（ごまがしのない食品）

2回目の訪問

平成28年11月19日、20日

1日目 講義：食品に関する情報→甘味物実習→餡づくり②

2日目 講義：輸入食品の品質・表示→実習：自分で作る甘味物→振り返り（自分の食生活・消費生活）

講師・担当者

（有）佐藤製菓所 代表取締役 佐藤勝也
甘味所「悠豆里庵」店主 佐藤和美

昨年の受講生の感想

工学部 近藤 源

私がこのプログラムを選んだ理由は、甘いものが好きで単純に食べただけだった。しかし、食品添加物について深く知ったことでとても驚いたし、何よりも早く知ることができてよかったと思っている。実際に食品添加物が全く入っていない餡蜜や羊羹、餅やあんこパイを食べさせてもらった時、食品添加物が入っているものは全然違っていった。このフィールドワークを通し、普段生活の中で必要なことを教わることでできて良かった。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

七所明神伝説と 地域活動のあり方を探る



目的・概要

七所明神は、十六代天皇の皇子である大山守皇子の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという由来のある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市宮内地区にある。宮内地区には皇子の頭の部位が祀られているという。そういった七所明神の伝説に触れ、学んでもらひ、そして、御祭燈祭りや伝統工芸の制作などを通して、新庄市宮内地区における地域活動のあり方を探ってもらう。

授業計画

1回目の訪問

平成28年10月29日、30日

1日目 七所明神について講話→七所明神巡り

2日目 薑刈作業→芋煮→絵馬製作

2回目の訪問

平成29年1月7日、8日

1日目 御祭燈祭準備→もちつき体験→御祭燈祭

2日目 御祭燈祭後片付け→伝統工芸(はげご)製作→活動に対する感想と提言

講師・担当者

七所明神の環境を良くする会 代表 叶内克和

昨年の受講生の感想 農学部 森原 一樹

これまでの私の地域活動に対する考えは、地域で催し物を行うこと際には伝統を絶やさずに行いたい、多くの人たちに参加してほしいという思いがあるとはかり考えていた。しかしそれだけでなく地域の方々々が祭りの最中に楽しそうであったことに強い印象を受けた。これはその場にはいないと絶対に感じられないような強さだった。目的を達成するだけの活動でなく、過程を大切にすることは理想の地域活動であると思う。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄伝統の民俗文化を体験しよう ～隠明寺風と昔語り～



目的・概要

自然豊かな新庄には、数多くの伝統文化が現代まで伝えられている。それらを保存・伝承している団体とともに活動を行うことで、地域の伝統文化への理解を深めることを目的とする。1回目は山形を代表する風である『隠明寺風(おんみょうじたこ)』について、その歴史を学び、実際に風を制作する。2回目は新庄・最上地域に伝わる『民話』について、講義、実習をととして学び、民話を生かしたまちおこしについて考える。

授業計画

1回目の訪問

平成28年11月19日、20日

1日目 ガイダンス
講義:『隠明寺風の歴史について』
実習:隠明寺風制作(絵付け)

2日目 実習:隠明寺風制作(組立て)
風揚げ※
※雨天時は内容を変更する場合があります

2回目の訪問

平成28年11月26日、27日

1日目 ガイダンス
講義:『新庄の民話』
実習:伝承の民話を聴く&語る

2日目 散策:伝説の舞台となった地を巡る
意見交換:『民話を生かしたまちおこし』

講師・担当者

隠明寺風保存会 事務局長 佐々木新一郎
新庄民話の会 会長 佐藤榮一 ほか

Newプログラム

このプログラムは初めて実施されるプログラムです!

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

山間地の文化を掘り起こそう！



目的・概要
 高度成長期の競争社会で、山間地の生活文化から滲み出ていた、人と人をつないでいた「結い」や「講」がなくなりつつあります。今、その切れそうになった糸を、もう一度一本一本つなぎ直して、今後、どんなことがあっても切れないようにしていきたいと思っています。そのため、8年前から、地域総合文化祭「さわやか祭り」と子供たちが主役の「なし団子まつり」を開催し、地域住民のつながる地域社会を目指して活動しています。当地区の二大イベントに参加され、皆さんの新鮮な感覚でこのお祭りを盛り上げていただき、新たな地域文化を創造していきたいと思っています。皆さんのお知恵と行動力に期待しています。宿泊は、もちろんホームステイでお待ちしています。

授業計画

1 回目の訪問

平成28年10月29日、30日

- 講話 「さわやか祭り」について
 実習 さわやか祭りの準備
 実習 さわやか祭りへの参画

2 回目の訪問

平成28年12月10日、11日

- 講話 伝統行事「なし団子まつり」
 実習 なし団子まつりの飾り作り、冬支度
 討議 地域文化活動の創造に向けた提言

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会

昨年の受講生の感想 農学部 近藤 裕貴

金山町で過ごした四日間は、普段の大学生活では味わえない経験をもたらし、生きていく中で普段忘れがちになってしまう「食の大切さ」、「人と人のつながり」を確認させてくれた。金山の方々は、ホームステイ先で私たち一人一人にしっかり向き合ってくださり、私たちが準備した祭りに町の方々が来てくださった。このことを通して、私は金山の町と人が大好きになったし、人を受け入れ、受け入れてもらうことは人間社会の中でとても重要であると思った。

担当者

道草ぶんこう運営委員会

森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～



目的・概要
 遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながるかと考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

授業計画

1 回目の訪問

平成28年12月10日、11日

- 講話 「金山町の自然を知る」
 実習 荒廃した森林で鳥取りリースづくりを楽しむ
 実習 伝統芸能「柳原番楽」の見学

2 回目の訪問

平成29年1月7日、8日

- 講話 「金山町の歴史民俗」
 実習 里山の食文化「餅つき」など
 実習 クロスカントリースキー体験

講師・担当者

遊学の森案内人 会長 笹原忠昭

昨年の受講生の感想 人文学部 足利 璃来

番楽はとても迫力があり、なしだんご作りや雪だるま制作で子供たちと関わった。今までこんなに子供とふれあう機会はなく、元気な姿や、人と星を作らずに接してくる姿、さらには真っ直ぐな言葉がとても印象的だった。松ぼっくりなどを使ったクリスマスリースやぶどうづつるを使ったキーホルダーを作らせていただいたり、遊学の森館内には花を和紙にのせた提灯など、ものづくりが好きで私にとってとても興味深い活動だった。

担当者

遊学の森案内人

大場満郎さんの冒険の心に触れ、 最上を体感しよう！



目的・概要

目的：大場満郎氏の冒険心に触れるとともに、冒険疑似体験を通して人生観を広げる。また、子ども達とともに様々な暮らし体験を通して、社会性や感受性を高める。

概要：大場満郎氏がコーディネーターを務める放課後子ども教室に参加し、子どもたちとともに体験をする。それを通して、子どもの成長に触れることで社会性や感受性を高める機会とする。大場満郎氏の冒険体験談や同氏との冒険疑似体験を通じて、人生観を広げる機会とする。

授業計画

1 回目の訪問

平成28年10月29日、30日

- ・放課後子ども教室に参加
(稲こき作業、野菜収穫・販売体験など)
- ・大場満郎氏の講話

2 回目の訪問

平成28年11月26日、27日

- ・放課後子ども教室に参加
(マイ箸づくり、食育、着ピ大会など)
- ・冒険疑似体験(トレッキング)

講師・担当者

大場満郎冒険学校

大場満郎

昨年の受講生の感想 地域教育文化課 加賀 竜也

活動の中でも特に心に残っているのは、大場満郎さんの講演である。冒険の話も、なかなか聞くことのできない貴重なものでこれからのためになる話だったが、私の心により響いたのは人生観の話だった。大場さんの話には「自分は世間を知らなかったがために純粋にやりたいことができた」とあり、自分を突き通したからこそ大記録を打ち立てることができたのだと感じた。楽しくもあり、勉強にもなる最高の四日間であった。

担当者

最上町教育委員会 社会教育係

里地里山の再生



目的・概要

目的：農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得することとする。荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

- 地域学講座(地域の方との懇談会)
- 生物多様性の環境保全活動
- 食と農の体験活動

授業計画

1 回目の訪問

平成28年10月29日、30日

- 手倉森:シイタケ、ナメコの収穫活動
- 堀内地区:大根、白菜などの収穫活動

2 回目の訪問

平成28年11月19日、20日

- 手倉森:雪囲い体験活動
- 堀内地区:大根、白菜など収穫体験

講師・担当者

地域住民

昨年の受講生の感想 地域教育文化課 加藤 結

初日、舟形町に着いて私が抱いた印象は、自然に囲まれていて空気がきれいだという事だ。都会で生まれ、自然にあまり触れずに育ってきた人がここへ来たらどう思うだろう。雑音がなく、自然の香りがする舟形はリラックスできる空間だと思う。若い人が農業に携わるには、まず興味を持ってもらうことが大切だと思うが、そのきっかけとしてこの活動はぴったりだと感じた。農業の大切さと現状を知ってもらうことが、今後の農業を支えていく力になると思う。

担当者

堀内ファーム事務局 大山邦博



目的：神室少年自然の家主催事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

概要：自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、主催事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1回目の訪問

平成28年12月10日、11日

企画事業 「わんぱく探検隊Ⅱ-①」

小学3・4年生を対象事業の支援

- 班付きスタッフ
- 館内調理
- テント泊
- クラフト など

2回目の訪問

平成29年1月21日、22日

企画事業 「わんぱく探検隊Ⅱ-②」

Ⅱ-①と同じ児童対象

- 班付きスタッフ
- 館内調理
- 雪中テント泊
- スノートレッキング
- 雪遊び など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想 医学部 小野 直基

私は将来地域医療に関わりたいたいと考えているが、医療施設の少ない地方において子供と関わらずに生きていくのは不可能であり、患者である子供との間に信頼関係を構築するには適切な心理的な距離感を見つけて出すことは必要不可欠であろう。また、将来自分が親になった時に子供をきちんとしつけができる親になりたい。今回のフィールドワークで学んだ事や得た経験を、しるべき時に活かせるよう忘れずにいたいと思う。

担当者

山形県神室少年自然の家 研修主事 柿崎健



目的：大蔵村の自然と文化を地域の人々と関わりを通して体験し、自然と共存して生きる人々の生活と知恵を学ぶ。1回目は、村の観光パンフレットづくりの学習を行い、肘折温泉で人力車を引き、観光に携わっている方から温泉の歴史や散策しながらの観光学習をしていただきます。また、村文化財保護委員長の案内で廃村（大蔵村小滝）を訪ねます。2回目は、肘折こけし職人の、鈴木征一さんによる「こけし絵付け体験」、収穫されたそば粉を使用して「そば打ち体験」を実施し、大蔵村伝統芸能、大蔵村指定文化財の巨木等の文化学習及び日本棚田百選に認定された「四ヶ村の棚田」や、縁結びの神として知られる「地蔵倉」へのミニ登山などを行ない、地域に根づく伝承・伝統行事を通して、大蔵村の自然文化についての体験学習を行ないます。

授業計画

1回目の訪問

平成28年10月29日、30日

- 肘折温泉散策、温泉マップ作り、
- 廃村を訪ねて(大蔵村小滝)

2回目の訪問

平成28年11月5日、6日

- こけし絵付け体験、そば打ち体験、
- 大蔵村の歴史や文化を学ぶ(合海田榎え踊り、巨木観察、清水城址、四ヶ村の棚田、地蔵蔵)

講師・担当者

- 合海田榎え踊り保存会
- 肘折こけし工人
- 大蔵村観光ガイド
- 村文化財保護委員長

- 松田与市
- 鈴木征一
- 佐藤則夫
- 熊谷勝保

担当者

大蔵村教育委員会 生涯学習係長 佐藤美輝

昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 越後七々美

大蔵村は私が生まれ育った地元である。山形県で一番小さな村で、自然に人と人との間で挨拶が飛び交う。そんな大蔵村を、私は一度地元を離れた人の目線で見つめてみたいと思った。自分は大蔵村のことを大体知っているつもりでいたが、合海田榎え踊りや、清水城が県の指定遺産になっていることなど、肘折ダムが国の無形文化財に指定されていることなど、知らないことがたくさんあった。大蔵村について再び見つめ直して自分の地元が誇りに思えた。

戸沢村 里山保全とキノコ料理



目的・概要
四方を山々に囲まれた角川地域は、山からの恵みが豊富である。この山を守り、利用する活動を行う。里山のナラ枯れ防止対策にも資する炭焼き材の切り出し、森林の管理作業、きのこ探し、きのこ料理作り、なめこの植菌、山の宝を利用した物作りなどの活動を体験する。

1 回目の訪問

平成28年11月12日、13日

1 日目 地元産「最上早生」のそば打ち体験。午後は炭焼き材の切り出し・木割り・運搬を行う。

2 日目 キノコ探し、キノコ料理づくりを行う。午後は、ナラの苗の植樹となめこの植菌を行う。

2 回目の訪問

平成28年11月26日、27日

1 日目 杉林の除伐・間伐を行う。午後は製材所の見学、杉林の枝打ちを行う。

2 日目 山の宝を利用した物作り。

講師・担当者

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかの里

New プログラム

このプログラムは初めて実施される
プログラムです！

戸沢村 創作太鼓と冬の里山ぐらし体験



目的・概要
角川地域の学校教育で始まった和太鼓演奏が地域の保護者をも巻き込み、平成9年に「角川太鼓の会」が結成され活動を続けている。農山村の趣向を取り入れた演奏曲をつくり、イベントなどで好評を博しており、これら和太鼓の魅力を体験する。冬の里山暮らし体験は、農山村の冬の暮らしの一部を体験して頂き、今日に引き継がれている農山村の文化に触れて頂く。

1 回目の訪問

平成28年12月10日、11日

1 日目 ぞうり作り・漬物づくり。

2 日目 角川太鼓演奏の披露・太鼓基礎練習・演奏曲の練習を行う。

2 回目の訪問

平成29年1月7日、8日

1 日目 かまくら作り・かんじきハイキング・御柴灯（火よけの催事）を体験する。

2 日目 太鼓の曲練習を行い、最後に太鼓演奏の発表を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師
角川太鼓の会メンバー

担当者

田舎体験塾つのかの里

昨年の受講生の感想 理学部 市川 美咲

私が一番印象に残っているのは、「何もないところにいろいろな宝」という戸沢村の方の言葉です。草履づくり、漬物づくり、太鼓の練習を体験しましたが、太鼓の演奏はとてもクオリティが高く、力強い音が胸と心に体に響いてきました。小学生から大人までがみんな仲が良く、和気あいあいと練習する姿を見て、角川地区の人々のつながりを感じました。この村には、温かな地域のつながりと角川太鼓という素晴らしい宝物で溢れているのだと思いました。